

8月咲き小ギク新品種 ^{かすが} ^{ほし} ‘春日の星’ の育成

～高温の年でも安定して盆に開花します～

8月咲き小ギクの新品種‘春日の星’を育成しました。本品種は小ギクの需要期である盆時期に安定して開花する特性を有しています。

1. 背景と目的

本県の小ギクは生産量全国第2位の主要品目であり、主に露地栽培により5月から12月まで出荷されています。しかし近年春から夏にかけて気温の高い年が多く、その影響で開花時期が不安定となり、需要期である盆時期の安定出荷が難しくなってきました。そこで、高温の年でも開花時期が変動しにくい盆向け小ギク品種の育成に取り組みました。

2. 研究成果の概要

‘春日の星’は8月上旬に安定して開花する黄色（RHSチャート3A）の小ギクです（図）。約100cmの切り花長が確保できるとともに、草姿が整っていることから出荷調製時の作業性に優れています。

本品種は当センターにて育成した8月咲きの系統を親として2012年に交配し、得られた実生を選抜対象としました。2013～2018年に露地と、無加温ハウスでの比較試験を実施し、擬似的に再現された異常気象下においても十分な切り花品質を有し、盆時期に安定して開花する系統を選抜しました（表）。

表 新品種‘春日の星’と在来品種‘翁丸’における開花日変動

品種名	2018年開花日			2017年開花日		
	露地区	高温区	両区の差(日)	露地区	高温区	両区の差(日)
春日の星	8/5	8/14	9	8/4	7/31	-4
翁丸	7/16	7/27	11	7/18	7/11	-7

加えて2016～2018年にはJAならけんの協力により、生産現場における栽培試験を開始。平群町と葛城市における適応性を確認するとともに、生産者の意見をいただくことで、より実用性の高い品種の選抜に繋がりました。

以上の試験を踏まえ、切り花品質や開花特性の安定性、生産者段階における実用性が十分に確認できたため、2019年2月に品種登録出願しました。

3. 実用化に向けた対応

品種登録上の正式な名称は‘春日Y2’ですが、品種の性質が分かりやすい‘春日の星’という名称で一般流通する予定です。本品種を活用した営利栽培が既に開始されており、需要期である盆時期の出荷量が安定することで奈良県産小ギクの競争力の向上が期待されます。



図 新品種‘春日の星’と頭花の形状

(育種科 辻本直樹)